

シラスウナギ大量生産加速化のための意見交換の概要について

水産庁は、ウナギを今後も安定供給できるようにするため、平成 25 年 5 月からシラスウナギ大量生産加速化に向けた産業界との意見交換を行いましたので、その概要をお知らせします。

1. 背景ならびに開催概要

近年、シラスウナギは不漁が継続しており、ウナギの安定供給や養殖業の経営にも大きな影響が懸念されています。このため、ウナギ資源の資源管理に加え、シラスウナギの人工的産出の早期実現が必要となっています。実用規模での大量生産を実用化するために克服すべき課題の早期解決のためには、試験研究機関での技術開発に加え、関連の産業界も含めた幅広い分野の方々からの御意見を御得て対応を検討していくことが重要です。

このような背景の下、平成 25 年 5 月から産業界を含む幅広い分野からの専門家の参加を得て、シラスウナギ大量生産加速化のための意見交換を実施しました。

2. 意見交換における論点

- (1) シラスウナギ人工種苗生産技術における課題の共有
- (2) 大量生産加速化に向けて今後必要な技術の整理
- (3) シラスウナギ大量生産加速化に向けた技術開発の取組の方向

3. 今後の予定等

今後、水産庁は、飼育作業の自動化・機械化や新たな飼料の開発等、意見交換で得られた取組の方向性を踏まえ、シラスウナギ人工種苗大量生産に向けた技術開発の加速化を推進する所存であり、引き続き幅広い分野からの参加を求めていく予定です。

<添付資料>

- ・ シラスウナギ大量生産加速化のための意見交換の概要

シラスウナギ大量生産加速化のための意見交換の概要

1. ニホンウナギの人工種苗に関する研究開発の歴史と現状

・独立行政法人 水産総合研究センターは2002年に世界で初めてシラスウナギまでの人工飼育に成功。その後、2010年に同じく世界で初めてニホンウナギの完全養殖に成功。

・この間、飼育技術の向上により、受精卵から、レプトセファルス（ウナギの仔魚）を経てシラスウナギ（ウナギの稚魚）への変態完了率や生残率は向上。シラスウナギへの変態開始までの日数も短縮化。しかしながら、シラスウナギの商業規模での生産については依然として多くの課題。

2. 大量生産の加速化に向けた主な課題

ニホンウナギの人工種苗の成長・生残をさらに向上させるためには、以下の課題がある。

① 人工種苗用飼料

現在の飼料はサメ卵が主体。大量の飼料を安定して供給するためには、サメ卵に依存しない飼料の開発が必要。

② 人工種苗の効率的飼育

仔魚は自力で飼料を摂餌する能力が乏しく、また水質の悪化にも弱い。効果的に飼料を摂取でき、また、飼育水が汚れて仔魚が死滅しないように、新たな給餌方法とそれに適した飼料の開発や短時間で残餌を洗い流し水を入れ替える技術が必要。

3. 大量生産の加速化に向けた取組の方向性

これらの課題について意見交換した結果、今後の方向性としては、民間企業の技術を活用した給餌、換水、残餌処理などの作業の自動化・機械化や、水が汚れにくい飼料の開発などを検討する必要性が指摘された。

エスエス(株) (b/c)